

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①授業改善の視点である主体的・対話的で深い学びを踏まえ、生徒自らが問いを見だし解決していく授業を行うために研究研修を行います。②学習の成果を的確にとらえ、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるように学習評価を行います。	コロナ禍により、ICTを活用した指導方法は各々で研鑽に努めている。さらに指導方法として、全体指導や個別指導、教員がファシリテートし生徒が主体的に学びを進めるための指導方法を確立していくことにおける「いじめ」への認識、学習評価についてもさらに研修する必要がある。	B
人権・道徳教育	①人権講演会や人権作文・人権標語への取り組みなどを通して人権尊重の基盤を育成し、SDGsなどグローバルな視点で思考する生徒を育てます。②道徳の授業では生徒の実態に応じた教材を選定し、「議論する道徳」を促せるよう指導方法を工夫します。	①人権講演会では3学年ともユニセフを講師に招き、SDGs・グローバルな視点で学習することができた。全校集会では人権作文優秀生徒の作品の発表を行い、人権尊重に対する考えを共有することができた。②道徳の授業では、学年ごとに行事考慮した教材の選択について工夫することができた。	B
健康教育	①新体力テストを実施し、その結果を基に体力向上に向けての取り組みを充実します。②部活動や昼休みに生徒が安全で効率よく、自主的に運動に取り組む環境を整えます。③食育や保健活動、学校保健委員会の充実を図り、健康な生活を送ろうとする意識や実践力を高めます。	①新体力テストの結果を基に、自分を把握させ、体力を向上させる方法について指導し次年度の計画を立てさせた。②自ら進んで安全に運動を行うことができるように、指導した。③保健活動を通して、自分の健康について知り、健康な生活を送ろうとする力を育むことができた。	B
地域学校協同活動	①概ね月1回の学校便り発行、学期に1回のPTA会報誌の発行、学校ホームページの更新、校門脇掲示板を活用し情報発信します。②次年度入学予定児童へ向けた学校紹介のDVDを作成します。③地域と連携した行事の参加や校内外の環境整備を進めます。	①学校便りは毎月発行できました。また、PTAの広報誌も委員の方と連携をとって発信できた。②学校紹介DVDの作成、小中学校の児童会生徒との質問会を予定している。③体育祭に学校運営協議会の方を招待することができた。	B
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を毎週定期的に行い、速やかな情報収集と共有化を図り、対応や対策状況を組織として検討、確認します。②年間予定の中に教育相談を計画的に設定し、日々変化する生徒の様子や考え、悩みを受け止める時間を作り、いじめの早期発見、早期対応につなげます。	「いじめ防止対策委員会」を毎週定期的に行い、速やかな情報収集と共有化を図ることができた。「いじめ」に対しての認識やとらえ方を委員から各学年の職員へ伝えることで、校内における「いじめ」への認識、初期対応の指導へつなげることができた。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①全教職員のスキルアップのため、年間の研修計画を立案し、指導主事の助言を受け研修を実施します。また、職員会議等を利用して、校内の教職員を講師として研修を実施します。②出席確認書、連絡票等の文書の簡素化・効率化を行い、事務作業にゆとりを持たせることにより、業務の軽減・質の改善を目指します。	人材育成としては、研修会だけでなく教科会やメンター研修などを計画的に、必要に応じて実施することで自己研鑽をはかっていた。職員室での普段の会話をさらに大切に、前向きな働き方と自己を高めようという雰囲気をもつチームをつくるのが大切である。今年度は会議がスリム化された。来年度は組織を再編し、業務をさらに組織的に行う予定である。	B
特別支援教育	①一人ひとりのニーズを把握して適切な教育的支援を行うために、個別的教育支援計画を正しく作成し、支援に活用できるよう努めます。②特別支援教室の円滑な運営ができるよう定期的に特別支援委員会を開催し、個への支援が適切かどうか十分に図ってから利用開始できるようにします。	個別の支援計画を正しく作成し、保護者と振り返りができた。また、特別支援委員会を通じて情報交換を行い、適切な指導を行うことができた。	B
安全教育	①防災訓練や防犯訓練、学校保健委員会の充実を図り、安全な生活を送ろうとする意識や実践力を高めます。②防災や防犯について学習を深めることで、命を守ることの大切さを実感させます。	防災避難訓練、引き取り訓練、不審者対応訓練を行うことができた。訓練の事前学習として、防災や防犯について学習し、実践する力を育むことができた。学校保健委員会では、『防災』をテーマに、生徒や保護者と協力して被災時の避難所運営について学ぶことができた。	B
生徒指導	①生徒の基本的な生活習慣をより良い方向に導き、社会の形成者として命と基本的人権を尊重する態度を身につけさせます。②教職員が一つのチームとなって連携を図り、日常生活のあらゆる場面を通じて生徒との人間関係のふれあいを深め、生徒の人間性や個性の伸長を図ります。	生徒の基本的な生活習慣の向上を図り、社会の一員として命の大切さや人権を尊重する態度を身につけるように指導を行った。生徒指導に当たり、教職員が一つのチームとなって連携を図り、日常生活のあらゆる場面で生徒とのふれあいを深めながら、生徒の人間性や個性の伸長を図ります。	B
キャリア教育	①1年生では「職業講話」、2年生では「職業体験」を実施し、外部講師による講話や地域の事業所での体験を通して「働くこと」への意義を学びます。②3年生では「進路指導」全般を通して進路選択、決定ができることを目指し、「自分作り教育」に取り組んでいます。	①1年生では「職業講話」、2年生ではコロナ禍の影響により、「職業体験」が中止となり、代替として「職業講話」を実施し、外部講師による対面での講話によって職業観を学ぶことができた。②3年生では「進路指導」全般を通して進路選択、決定に取り組むことができた。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度は、6月に小中学校職員による研修を行い、各校での情報端末を活用した教育活動の報告及び研修を行った。また、11月には授業実践報告をかねて小学校において研究授業及び研究討議を行い、研修を深めた。9年間の学びの継続性を果たせるためにも良い機会となった。小6の中学校体験は数年間、中学校PR動画で代替しているが、今年度はオンラインを活用した小学生と中学生の情報交換会を行い、連携を深めることができた。		
学校関係者評価	3回の学校運営協議会を通して、ブロック内の課題を共有するだけでなく、その課題解決に向けて積極的に意見を交換することができた。今年度は、ブロック内研修が再開され、小中での授業改善への取組の機運が高められた。「主体的で深い学び」や「思考力の育成」に視点を置き、児童生徒の持っている力をどのように引き出すか、ICTの活用を含め、ブロック内で授業実践や成果を共有していくことを確認した。地域では、新型コロナウイルスの感染防止対策が緩和の方向に向かうとともに、児童生徒が地域行事に参加できるように、大人の積極的な協力が期待されていることを確認した。		
中期取組目標振り返り	感染症の流行により依然として教育活動の制限はあるものの、順次緩和の方向に向かってきている。今年度は旅行の行事や体育祭、合唱コンクール等、重要な行事を実施することができた。また、ICT機器を活用し中学校と外部を繋いで教育活動に取り組むことで、重点取組分野の具体的取組に関して目標をほぼ達成することができた。次年度からは現行教育課程への理解をさらに深め、学校教育目標の達成を目指し中期取組目標を念頭に教育活動を展開していきたい。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①授業改善の視点である主体的・対話的で深い学びを踏まえ、生徒自らが問いを見だし解決していく授業を行うために研究研修を行います。②学習の成果を的確にとらえ、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるように学習評価を行います。	①校内授業研究を2回実施し、主体的・対話的で深い学びを踏まえ、生徒自らが問いを見だし解決していく授業を行うための授業について考えることができた。②学びのプランを全校で実施することで、生徒が共通して学習に取り組む、振り返るプロセスを提案することができた。	B
人権・道徳教育	①人権講演会や人権作文・人権標語への取り組みなどを通して人権尊重の基盤を育成し、SDGsなどグローバルな視点で思考する生徒を育てます。②道徳の授業では生徒の実態に応じた教材を選定し、「議論する道徳」を促せるよう指導方法を工夫します。	①人権講演会ではユニセフ協会の方を招きSDGsなどグローバルな視点で学習した。人権作文や人権標語の作成など人権に対する意識を高めた。いじめ防止や挨拶推進活動など生徒主体で取り組むことができた。②道徳の授業では行事を考慮した教材の選択について工夫することができた。	B
健康教育	①新体力テストを実施し、その結果を基に体力向上に向けての取り組みを充実し、生徒が自主的に運動に取り組む環境を整えます。②食育や保健活動、学校保健委員会の充実を図り、健康な生活を送ろうとする意識や実践力を高めます。	①毎時の体育の授業において持久力、柔軟性を高めるための補強運動を行い、生徒自身が成長を実感できるように取り組んだ。②保健活動や学校保健委員会を通して、心身の健康について知り、健康な生活を送ろうとする力を育むことができた。	B
地域学校協同活動	①学校便り、PTA広報誌の発行、ホームページの更新を目指します。②小中連携会議の要望により検討していきます。③式典への参加も増えることが考えられるので、地域との連携をとっていきます。	①学校だよりを毎月発行した。PTA広報誌も連携して情報発信することができた。②児童の中学校訪問は熱中症対策のため行うことができなかった。次年度も小中連携会議の要望により検討していく。③体育祭、卒業式に学校運営協議会や地域の方などを招待することができた。	B
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を毎週定期的に行い、速やかな情報収集と共有化、「いじめ」への認識の共通理解を図り、対応や対策状況を組織として検討、確認します。②年間予定の中に教育相談を計画的に設定し、日々変化する生徒の様子や考え、悩みを受け止める時間を作り、いじめの早期発見、早期対応につなげます。	「いじめ防止対策委員会」を毎週定期的に行い、速やかな情報収集と共有化、「いじめ」への認識の共通理解を図り、対応や対策状況を組織として検討、確認します。②年間予定の中に教育相談を計画的に設定し、日々変化する生徒の様子や考え、悩みを受け止める時間を作り、いじめの早期発見、早期対応につなげます。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①全教職員のスキルアップのため、年間の研修計画を立案し、指導主事の助言を受け研修を実施します。また、職員会議等を利用して、校内の教職員を講師として研修を実施します。②文書の簡素化・効率化を行い、会議の時間短縮に努め、業務の軽減・質の改善を目指します。	①今年度は校内授業研究を2回と、総合的な学習の時間についての校内研修、また職員会議を通じて、授業評価や特別支援教育についての研修を行った。②教務や学年主任を中心に、会議の時間短縮、業務の軽減に努めた。	B
特別支援教育	①一人ひとりのニーズを把握して適切な教育的支援を行うために、保護者と連携を図りながら個別的教育支援計画を作成し継続して支援に活用できるよう努めます。②特別支援委員会を通じて情報交換を行い、適切な支援方法の検討や共有を行うことができた。また、関連機関へ繋げることができた。	①個別の支援計画を正しく作成し、保護者と振り返りができた。②特別支援委員会を通じて情報交換を行い、適切な支援方法の検討や共有を行うことができた。また、関連機関へ繋げることができた。	B
安全教育	①防災訓練や防犯訓練、学校保健委員会の充実を図り、安全な生活を送ろうとする意識や実践力を高めます。②防災や防犯について学習を深めることで、命を守ることの大切さを実感させます。	①防災訓練や防犯訓練を通して、安全むについて知り、安全な生活を送ろうとする意識や実践力を高めます。②防災や防犯について学習を深めることで、命を守ることの大切さを実感させます。	B
生徒指導	①生徒の基本的な生活習慣の向上、そして社会の形成者として人の命の大切さや人権を尊重する態度を身につけさせます。②生徒指導に当たり、係会などを通し連携を図り、日常生活のあらゆる場面で生徒とのふれあいを深めながら、生徒の人間性や個性の伸長を図ります。	生徒の基本的な生活習慣の向上を図り、社会の一員として命の大切さや人権を尊重する態度を身につけるように指導を行った。教職員がチームとなって係会などを通し連携を図り、日常生活のあらゆる場面で生徒とのふれあいを深めながら、生徒の人間性や個性の伸長を図ります。	B
キャリア教育	従来の職業講話や職業体験ではなく、「探究活動」のプロセスの「情報収集」という観点で、設定したテーマの課題解決に向けた「職業調べ」や「職業講話」を行っていくことを目指す。①課題設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現を繰り返していき、「自分作り教育」としてのキャリア教育を目指していく。	総合的な学習の年間計画を大幅に見直し、探究のプロセスを意識したカリキュラムマネジメントを行った。「自分づくり」をテーマに職業調べや職業講話を実施し、探究活動を実施することができた。自己の特性に気づき、自分らしさを発揮しようとする態度を育成することができた。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度は、6月に各校の教育課程全体を通して教科等横断的に育成を目指す「資質・能力」をもとに、「9年間を通して身に付けさせたい力」について6月に小中学校職員が研修を行った。また、11月には各小学校の授業実践報告をかねて研究授業を行い、小学校から中学校につながる学びについての研究討議を行い、研修を深めた。9年間の学びの継続性を果たせるためにも良い機会となった。		
学校関係者評価	3回にわたる学校運営協議会において、ブロック内の児童生徒の課題を共有し、課題解決に向けて積極的に意見交換を行うことができた。ブロック内の各学校では、授業改善に向けた研修や授業研究が積極的に進められ、児童生徒の「主体的な学び」や「思考力・判断力・表現力を育むためにはどうしたらよいか、委員から意見が寄せられた。また日々の地域の防犯・防災について、地域防災訓練などを通じて、学校・地域・保護者が連携しあうことの大切さを共有した。		
中期取組目標振り返り	今年度は旅行の行事や体育祭、合唱コンクール等、重要な行事をコロナ以前にほぼ戻して実施することができた。学びのプラン・校内授業研の実施などを通して主体的・対話的で深い学びの実践に効果も上げた一方、特別支援が必要な生徒の増加により個別支援学級教室が不足となり、十分な支援が行われなかったことが悔やまれる。また、学校施設の老朽化が著しいため、設置者による調査と修繕を計画的に行っていた「安全・安心な学校づくり」に尽力していきたい。次年度からは特別支援教育への理解をさらに深め、学校教育目標の達成を目指し中期取組目標を念頭に教育活動を展開していきたい。		

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①授業改善の視点である主体的・対話的で深い学びを踏まえ、生徒自らが問いを見だし解決していく授業を行うために研究研修を行います。②学習の成果を的確にとらえ、学びのプランを使って生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるように学習評価を行います。		
人権・道徳教育	①人権講演会や人権作文・人権標語への取り組みなどを通して人権尊重の基盤を育成し、SDGsなどグローバルな視点で思考する生徒を育てます。②道徳の授業では生徒の実態に応じた教材を選定し、「議論する道徳」を促せるよう指導方法を工夫します。		
健康教育	①新体力テストを実施し、その結果を基に体力向上に向けての取り組みを充実し、生徒が主体的に運動に取り組む環境を整えます。②食育や保健活動、学校保健委員会の充実を図り、健康な生活を送ろうとする意識や実践力を高めます。		
地域学校協同活動	①学校便り、PTA広報誌の発行、ホームページの更新を目指します。②小中連携会議の要望により検討していきます。③式典への参加も増えることが考えられるので、地域との連携をとっていきます。		
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を毎週定期的に行い、速やかな情報収集と共有化、「いじめ」への認識の共通理解を図り、対応や対策状況を組織として検討、確認します。②年間予定の中に教育相談を計画的に設定し、日々変化する生徒の様子や考え、悩みを受け止める時間を作り、いじめの早期発見、早期対応につなげます。		
人材育成・組織運営(働き方)	①全教職員のスキルアップのため、年間の研修計画を立案し、指導主事の助言を受け研修を実施します。また、職員会議等を利用して、校内の教職員を講師として研修を実施します。②文書の簡素化・効率化を行い、会議の時間短縮に努め、業務の軽減・質の改善を目指します。		
特別支援教育	①保護者と連携を図りながら一人ひとりのニーズを把握した個別的教育支援計画を作成し、支援に活用できるよう努めます。②特別支援教室の円滑な運営ができるよう定期的に特別支援委員会を開催し、個への支援が適切かどうか十分に図りながら継続して支援できるようにします。		
安全教育	①防災訓練や防犯訓練の充実を図り、安全な生活を送ろうとする意識や実践力を高めます。②防災や防犯について学習を深めることで、命を守ることの大切さを実感させます。		
生徒指導	①生徒の基本的な生活習慣の向上、そして社会の形成者として人の命の大切さや人権を尊重する態度を身につけさせます。②生徒指導に当たり、係会などを通し連携を図り、日常生活のあらゆる場面で生徒とのふれあいを深めながら、生徒の人間性や個性の伸長を図ります。		
キャリア教育	「探究活動」のプロセスの「情報収集」という観点で、設定したテーマの課題解決に向けた「職業調べ」や「職業講話」を行っていくことを目指す。①課題設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現を繰り返していき、「自分作り教育」としてのキャリア教育を目指していく。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			